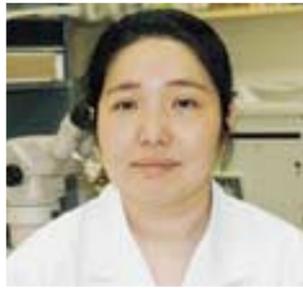




会社の窓

分室環境調査課主事  
山木かおりさん



### 生き物も食材!?

「キーワードは『食べる』かな」と笑うのは、分室の山木さん。学生時代は食物栄養を学んでいました。

「食品分析の実験とかも授業であったので、サンプルの分析という点ではすんなり仕事に入れました」

生物を扱う仕事だが、一方で食材として見ている自分があるそうです。

「ウニやアワビの年齢組成を調べたりするんですが、殻だけ送られて来るんです。シシャモ親魚の測定もあるんですけど、ホルマリン漬けなんです。おいしそうなもの扱ってても口には入らないんですね。でも、いろんなサンプル見ても、これはどうやって食べたらおいしいだろう

っていつも考えちゃいます」  
ここに来たときは、生物の事はあまり知らなかった。入ってからいろいろ勉強させてもらって、会社に感謝していると山木さんは言います。  
「ラーパの見方とか水試に習いにくらせてもらいました。やれることが増えて仕事が広がっていくのがまた嬉しくて。長期の調査では、生物の成長の過程を見ることもできました。知識が増えて、自分の世界が広がって楽しいですよ。いい仕事に巡り会えたなって思います」

## アウア 母ちゃん

沙留漁協婦人部

部員数80人



婦人部長 小田桐紅葉さん  
後継者に早く部長をバトンタッチして、個人的には地域の子もたちと一緒にできる活動を企画したいですね。例えばフォークダンスとか、年寄り子どもも楽しめることができればと思います。

あなたのレポーター The Aquaculture

# 育てる漁業

平成13年7月1日  
NO.338

発行所 / 北海道栽培漁業振興公社  
発行人 / 杉森 隆  
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目  
(北海道第二水産ビル4階)  
TEL(011)271-7731 / FAX(011)271-1606  
送金 / 信濃連の本公社口座(0018288)



### 大盛況！寿都のかき祭り

寿都町漁協寿がき養殖部会の主催する「かき祭り」が6月3日、美谷漁港で開催されました。

「寿がき」の宣伝を目的に始まった同イベントも4回目を迎え、町内外から3千人を超える人出となり、用意された生かき約2万5千個が完売しました。

同漁協のマガキ養殖は平成6年に試験事業として取り組まれ、9年に試験販売を行い、翌10年からは本格的に「寿がき」の名で殻付きのまま販売を開始しています。宅配便による直接販売が中心で、出荷時期が他産地の端境期に当たる4～6月ということも手伝って、年々人気が高まっています。

### CONTENTS 目次

漁業士発アクアカルチャーロード	2
沙留漁協指導漁業士 山内 幸義さん	
平成13年度通常総会	3～7
事業実施計画	
会社の窓 分室環境調査課 山木かおり	8
アウア母ちゃん 沙留漁協婦人部	8



### 今は亡き先輩の 功績を忘れずに

「中国のことわざに、のどが潤いて水を飲むときは井戸を掘った人のことを思えとありますが、沙留の者は、今のホタテの外海採苗の礎を築いた紺谷忠市さんと中村征夫君の名を忘れちゃならないですよ」と沙留漁協指導漁業士の山内幸義さんは話します。

紺谷さんは沙留漁協3代目の青年部長。山内さんが4代目。中村さんは5代目でした。

#### 外海採苗に挑戦

「紺谷さんが部長のときに青年部で、ホタテの外海採苗に挑戦しました。オホーツク海では沙留が最初じゃないかな。そのころは今のような採苗器がまだ分からなくて、ハイゼックスフィルムでやってみました。それでも稚貝が付いて、いけるかなと思ったら秋の分散の時期には10個ぐらいしか付いてなかった。袋じゃないから落ちてたんだらうけど、その知識も当時は無かった。それと中間育成の方も失敗しました。海が浅かった。12月には結構、稚貝が大きくなって、期待して春に行ってみたら、氷でみんな引っ張られて無くなっていった。そんなことを3年くらいやった。組合から支給された資材では間に合わなくて、紺谷部長は自分の資材をなげうってました」

昭和45年、山内さんが部長を引き継ぎました。そして、その翌年、紺

谷さんは病気で亡くなりました。40才という若さでした。

「昭和46年に湧別でホタテの増養殖検討会があって、そのとき来ていた大学の先生に外海採苗について聞いてみたら、レーバが少ないから外海ではできないと言われた。でも、自分は違うと思いました。紺谷部長がいろんなことやって失敗して、付くってことだけは確かめた。何か方法があるはずだと続けてみたけど、なかなかうまくいかなかった。5年部長をやった、中村君にバトンタッチして、ちょうどそのころ、噴火湾で使ってるぞってことで玉ネギ袋が出てきました」

#### 稚貝生産を企業化へ

昭和50年、中村さんの代になって玉ネギ袋を使い、5万粒ほどの採苗に成功しました。昭和55年ころには、2200万粒ほどの稚貝が生産できるようになったそうです。

「優秀な男だったよ。大量採苗や中間育成の技術をものにして、稚貝生産を企業化にのつけたんだもの」

7年後の昭和62年、中村さんは43才で事故に遭い、命を落としました。

「昔から、人材の材は財産の財だ、材料の材じゃ納得できないって思ってたけど、この二人はほんと沙留にとって失いたくない宝、人財でした。そういう先輩の積み重ねがあって、今があ



沙留漁協指導漁業士  
山内 幸義さん

るっていうこと、先人の苦勞を今の人たちに知っておいてもらいたい」

山内さんは平成7年から興部町議会議員を務めています。

「議員に漁業関係者ゼロというのが10年くらい続いて、周りや組合長から言われて立つ気になった。まあ部落の小間使みたいなもんです」

#### 環境保全を訴える

「我々にとっての海、漁場は畑と一緒に。魚を増やして獲るのは自分らの努力で何とかなるが、環境保全は漁業者だけでは力が及びません。町の行政の力も借りて、広く理解と協力を求めなければならぬ。牛の糞尿や牧草カバーの後始末の問題。山の木や護岸工事に遊漁者のゴミ。海の環境につながる問題は数えきれません」

山内さんは議員になるまでホタテの船頭を26年していましたが、議会で忙しくなってからは息子に譲り、秋の2か月間だけ小さな船で沖に出て、イカやカレイを獲っています。

「今、63才だから70まで、あと2、3年くらいは沖で魚を獲って、あとの4、5年は何らかの形で世話になった人たちへの恩返しや皆さんのお役に立てればなと思ってます」

### 平成13年度 通常総会開催

当社の平成13年度通常総会が6月22日、札幌の第2水産ビルで開催され、平成12年度事業報告及び決算、13年度事業計画及び予算などすべて原案通り承認、可決されました。また、任期満了に伴う役員改選では新役員が選出され、逝去された佐藤政雄会長の後任には杉森隆氏（道指導漁連会長、佐呂間漁協組合長）が互選されました。

開会にあたって、林和明副会長が「21世紀の第一歩となる本年は、わが国の水産業にとって大きな転換期を迎える重要な年であり、本道の栽培漁業を推進する中核機関としての当社の使命と責任は、極めて大きいものであると認識しています。平成12年度の事業実施結果では、ニシンが計画を下回る放流数となった以外は、ヒラメ、クロソイ、ウニ、アワビとも計画通り供給する事ができました。しかし、会社の経営基盤を支えている調査設計事業が、前年に比較して約2億円の減少となり、今後の動向に大きな懸念を抱えています。本年度の事業計画では、ニシンの種苗生産は5月末までに計画を上回る141万尾を生産して各地の中間育成施設に配布しました。ヒラメは5月中旬か

らふ化仔魚の飼育を開始しており、前年と同様の220万尾の放流を実施する計画です。クロソイも56万尾の需要にもとづいて順調に配布しています。また、浜の強い要請により、今年度からキタムラサキウニの種苗生産を実施することになりました。調査設計事業については、浜との強い信頼関係のもとに漁場環境の保全と水産資源の維持増大に取り組む当社に対して、最大限のご支援ご協力をお願いしたい」とあいさつしました。

【役員改選結果】(敬称略)

▷会長理事 = 杉森隆(新)▷副会長理事 = 林和明、佐々木隆人(以上再)▷大谷實(新)▷専務理事 = 和泉博邦(再)▷常務理事 = 今井肇(再)▷理事 = 北島哲夫、石黒勝三郎、渡邊静次、濱隆司、田中日一、大林弘志、蝦名俊弘、長沼憲彦、武藤市蔵(以上再)▷平野正男、柳谷法司、坂下登、高橋信一、安藤善則(以上新)▷監事 = 橋本勉、湊美喜夫(以上再)



#### 杉森隆新会長就任あいさつ



先ほど開催の理事会に於いて、会長に選任されました杉森で御座います。就任に当り一言ご挨拶を申し上げます。

本道の漁業が依然として厳しい状況下にあるなかで、浜の皆さんが、栽培漁業の更なる進展と期待を強く求められている「北海道栽培漁業振興公社」の会長に選任されましたことに対して、私は、その責任の重さに身の引き締まる想いでございます。

これまで公社は、アワビ、ウニの種苗生産に加えて、ヒラメ、ニシン、クロソイの種苗生産にも取り組み、漁業生産の増大と漁業経営の安定に力いっぱい尽くしてきたものと想っておりますが、今後も、

浜の皆さんのご意見をしっかりと受け止め、栽培漁業の振興発展に最大限の努力をして参る決意であります。

また、公社の経営基盤を支えております「調査設計事業」につきましては、これからますます重要となります漁業環境の保全と水産資源の維持増大にかかわる公社に対する浜の信頼をよりどころとして、調査機能の充実を図り、その期待にこたえられるよう努力してまいりたいと考えております。

最後に、道をはじめ会員皆様の変わりないご支援を頂き、公社設立の目的であります「北海道における沿岸漁業の振興発展を図るため、栽培漁業を積極的に推進するとともに、水産資源の維持培養を行い、もって漁業者の所得の向上と生活の安定に資すること」に、微力ではありますが、全力を傾注して参りたいと決意しておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げ、会長就任の挨拶と致します。

# 事業 実施 計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成13年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紙面上で紹介します。

## 1 栽培漁業指導事業

### (1) 栽培漁業振興フォーラムの開催

平成10年度から「生活の基盤を置く地域とその生活を支える漁業について、現状と何が問題なのか、何をすべきなのか、何をしたいのかを自由に話し合い、これから取り組むべき方向を見つける場」として「栽培漁業振興フォーラム」を開催してきました。

このフォーラムは市町村または漁協を単位に、参集範囲を次代に担う漁業士、漁協青年部、婦人部として、本年度は4回、石狩、胆振、日高、釧路支庁管内で開催します。

### (2) 研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に係る知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日的課題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。

研修事業計画

研修事業計画	実施時期	開催地
育てる漁業研究会	1月	札幌市
ミツイシコンブの生態と漁場管理について	7月	静内町
アワビ資源の増殖と資源管理について	8月	利尻町
噴火湾におけるホタテガイ栽培漁業の環境について	10月	伊達市

### (3) 広報普及事業

#### ア 機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を、本年度は、ページ数を従来の12ページから8ページに減じ、偶数月と奇数月の内容を変えらるとともに紙質も上質紙にして、毎月発行、配布します。

#### イ 北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場52か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめて速報するほか、年間の水温、気象をまとめて刊行、配布します。

この全道を網羅した日々の観測データは、道内唯一のもので広く有効に活用されていますので、観測従事者の協力を得て今後も継続します。

#### ウ 報告書の発行

「種苗生産事業報告書」の発行

公社が行っているヒラメ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産について、平成12年度事業の経過及び実績をとりまとめて発行、情報交換文献として関係機関に配布します。

### (4) 漁業技術研究支援事業

漁村青年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部(1件50万円、実施期間3か年)



を助成するとともに必要に応じ技術的な協力も行います。

また、地域の漁業振興に係わる取り組みのより一層の活性化を図るため、栽培漁業の推進に関連する加工、流通さらには漁業経営についての新しい取り組みに対しても支援します。

漁業技術研究支援事業計画

研究課題	実施団体
イワガキ養殖技術開発試験事業	祝津ヒラメ養殖協議会
カキ養殖技術開発試験事業	虻田漁業協同組合青年部
カキ養殖技術開発試験事業	榎法華漁業協同組合 カキ養殖研究会
水産物産地流通強化事業 (付加価値向上試験)	苫前漁業協同組合婦人部
アワビ養殖技術開発試験事業	杏形漁業協同組合青年部
アワビ人工種苗放流追跡調査事業	羽幌町漁業協同組合 焼尻地区青年部
シジミガイ天然種苗採取漁具の 導入改良試験事業	大樹漁業協同組合青年部
キタムラサキウニ養殖企業化試験事業	ひやま漁業協同組合 青年部瀬棚支部

### (5) 技術開発試験調査事業

#### ア クロソイ親魚養成試験

平成10年に瀬棚センターで種苗生産した稚魚を用いて、平成11年9月から親魚養成試験を開始しており、現在490尾(体長25cm)が飼育されていて、これを本年度も引き続き実施します。

#### イ ウニ餌料培養の効率化試験

TKF培養液に代わる新培養液の実用化と、この培養容器の開発を平成12年度に行い一応の成果を得ましたが、本年度は更に改良を加えた検討を行います。

## 2 日本海沿岸性 ニシン種苗生産委託事業

道は、日本海地域の漁業振興対策の一環としてニシン資源増大に力を入れることとし、平成8年度から13年度までの6か年を第一期(技術開発)として事業を推進しています。

本年度は、厚田村、留萌市、稚内市の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、ふ化から45mmまで飼育した後、厚田村、浜益村、留萌市、羽幌町、稚内市の地先で海中中間育成し、60mmから70mmの稚魚を

中間育成地先にそれぞれ20万尾、計100万尾を放流する計画です。

公社は、道から委託を受け、羽幌センターでふ化から45mmまで飼育管理します。



## 3 栽培漁業推進事業 (ヒラメ種苗生産事業)

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、30mm種苗を生産し、6か所の中間育成施設へ69万尾を搬出するとともに、羽幌、瀬棚両センターにおいて227万尾を放流サイズの80mmまで中間育成し、6か所の中間育成施設と合わせて220万尾を放流します。

種苗生産計画

北海道栽培漁業羽幌センター		
(110万尾放流体制)		
〔30mm種苗〕	〔中間育成〕	〔放流80mm〕
羽幌センター 147万尾	羽幌センター 119万尾	90万尾
	民間施設 28万尾	20万尾
	羽幌市 14万尾	10万尾
	余市 14万尾	10万尾
北海道栽培漁業瀬棚センター		
(110万尾放流体制)		
〔30mm種苗〕	〔中間育成〕	〔放流80mm〕
瀬棚センター 149万尾	瀬棚センター 108万尾	81万尾
	民間施設 41万尾	29万尾
	寿都 16万尾	12万尾
	大成 8万尾	6万尾
	吉岡 9.3万尾	6万尾
	知内 7.7万尾	5万尾

## 4 栽培漁業振興事業 (種苗生産等支援助成事業)

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から助成を行います。

栽培漁業振興事業実施計画

事業主体		対象魚種	助成対象事業費	助成内示額
島 牧 村	マ ソ イ	1,753	876	
恵山町漁協青年部「海を育てる会」	マ ダ ラ	1,155	577	
渡島東部海域栽培漁業協議会	ク ロ ソ イ	1,921	768	
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	マ ツ カ ワ	8,444	4,222	
	ハ タ ハ タ			
噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会	マ ツ カ ワ	6,240	4,160	
えりも町栽培漁業振興協議会	ハ タ ハ タ	7,457	4,000	
	ク ロ ソ イ			
	マ ツ カ ワ			
	マ ガ レ イ			
様似町水産振興協議会	エ ソ ボ ラ	976	487	
浦河漁業協同組合	マ ツ カ ワ	630	420	
三 石 町	ハ タ ハ タ	1,900	1,007	
	ク ロ ソ イ			
	マ ツ カ ワ			
静内漁業協同組合	マ ガ レ イ	6,356	3,354	
	ハ タ ハ タ			
	ク ロ ソ イ	1,580	1,050	
十勝管内栽培漁業推進協議会	マ ツ カ ワ			
大津漁業協同組合	ク ロ ソ イ	2,696	1,078	
釧路市漁業協同組合	ク ロ ソ イ	3,965	1,800	
	マ ツ カ ワ			
昆布森漁業協同組合	ニ シ ン	642	320	
厚岸漁業協同組合	ニ シ ン	1,000	500	
根室管内八ナサキガニ資源維持増大対策連絡協議会	ハ ナ サ キ ガ ニ	485	242	
根室管内ニシン種苗生産運営委員会	ニ シ ン	36,334	7,744	
根室管内栽培漁業推進協議会	ク ロ ガ シ ラ ガ レ イ	5,581	2,789	
	ハ タ ハ タ			
斜里・網走・常呂海域マツカワ栽培漁業推進協議会	マ ツ カ ワ	690	460	
宗谷漁業協同組合	ナ マ コ	2,279	1,139	
	ホ ッ カ イ エ ビ			
利 尻 町	エ ソ バ フ ン ウ ニ	2,480	1,240	
増 毛 町	ニ シ ン	2,140	1,069	
	ナ マ コ			
合 計	22件	13魚種	96,704	39,302

## 5 アワビ種苗生産事業

平成11年、12年及び13年春に採苗したアワビ種苗を育成管理し、129万200個を供給します。また、平成14年に供給する35mm以下の種苗87万7,500個、及び15年に供給する40mm以上の種苗22万7千個の合計110万4,500個の採苗を行い、育成管理します。

アワビ種苗本年度供給計画

殻長区分	15mm	20~25mm	30~35mm	40mm以上	計
11年春産				265,300	265,300
12年春産	30,000	106,600	708,300		844,900
13年春産	180,000				180,000
計	210,000	106,600	708,300	265,300	1,290,200

## 6 ウニ種苗生産事業

### (1) エゾバフンウニ種苗単価の改定

本年度からエゾバフンウニ種苗の単価を、5mm種苗で1円、10mm種苗で2円引き下げ新価格を認定します。

エゾバフンウニ種苗の新旧価格

殻径区分	5mm	10mm
新価格	9.5円	19.0円
旧価格	10.5円	21.0円

### (2) キタムラサキウニ種苗単価の設定

本年度から供給するキタムラサキウニの単価を、殻径5~10mm(平均殻径7.5mm)種苗で7.5円に設定します。

### (3) 種苗の育成管理と供給

エゾバフンウニ種苗は、平成12年秋に採苗した群と平成13年春に採苗する群を育成管理し、606万1千個を供給します。また、平成14年春に407万5千個を供給するため秋に採苗して、育成管理します。

一方、平成12年秋に採苗したキタムラサキウニ種苗を100万個供給するとともに、平成14年に100万個を供給するため、秋に採苗して育成管理します。

エゾバフンウニ付着期の幼生は580万個を供給します。また、アワビモ波板15,400枚を供給します。

エゾバフンウニ種苗本年度供給計画

殻径区分	5mm	10mm	計
12年秋産	3,716	300	4,016
13年春産	1,945	100	2,045
計	5,661	400	6,061

## 7 調査設計事業

会員、北海道、開発局、その他からの委託による調査設計業務を処理します。

委託者	業務内容
会 員	浅海漁場調査ほか
北 海 道	生息魚類相調査ほか
北海道土木現業所	多自然型川づくり調査、河川改修工事 漁業影響調査、漁港周辺生物調査ほか
開発局、開発建設部	漁場環境調査、漁業影響調査ほか
その他の機関	環境関連調査ほか

## 8 クロソイ種苗生産 委託業務特別会計

### (1) 事業の概要

平成9年度から11年度までの3か年計画で行われた道の「クロソイ種苗生産委託事業」が終了しましたので、平成12年度から会員の要望により30mm種苗を生産し、要望先へ配布しています。本年度は、30mm種苗56万3千尾を生産し、要望先へ配布します。

クロソイ種苗の要望先一覧表

要 望 先	尾数(尾)	備 考
留 萌 市	20,000	
増 毛 町	10,000	
寿都町漁業協同組合	92,000	
島 牧 村	20,000	
ひやま漁業協同組合瀬棚支所	100,000	
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	70,000	
噴火湾渡島海域漁業振興連絡協議会	50,000	
大津漁業協同組合	20,000	
釧路市漁業協同組合	35,000	
北海道立函館水産試験場	35,000	
漁 業 研 修 所	1,000	
室 蘭 漁 業 協 同 組 合	50,000	
古 平 漁 業 協 同 組 合	60,000	
合 計	563,000	